



心わメンバー

特集3

心のわ

自分たちができることをやってみよう。 大きく広げようころの輪。

心のわとは

『心のわ』は、5人のメンバー全員が車いす利用者です。2007年のパソコン教室で知り合い、名刺作成やホームページの作成・管理等をやってきました。しかし、団体の売り上げと会費のみの運営では先行きが見えず、今後を考えていたところ、四国中央市社会福祉課からピアサポートセンター運営のお話をいただきました。今後身体障害者へのサポート強化を考える上で、ピアサポートの重要性を認識し四国中央市では数少ない身体障害者当事者が運営する『心のわ』へ依頼が来



ました。事務所の確保と当面の助成金のめどがつき「障がいピアサポートセンター」を活動の中心とした新しい『心のわ』が動き始めました。また、先日9月11日「第1回 四国中央福祉用具展2011」を開催いたしました。当日は意思伝達装置、車いす、日常生活用具等の展示会を開催し大変好評でした。現在は、NP O法人化に向けて研究中です。

ピアサポート

ピアサポート (peer support) とは、Peer (仲間) を援助し支えるという意味 (障がい当事者による障がい者支援) で、障害者福祉の中では障害を持つもの同士が互いのことを一番理解できるといふことで、多くの手法が用いられ支援の中で重要視されています。

私は14歳で車いすに乗るようになったのですが、その時は身近に車いすを利用する人がいなくて、「自分ひとりか」という気持ちで落ち込む日々が続きました。しかし、高校生になると同年代の車いすの人とたくさん出会い、さまざまな話をする中で、自分のなかで何かが変わり始めたように感



障がい者共働オフィス
『心のわ』
宮崎 憲士
(四国中央市)

じました。私の短い経験からですが、人との出会いや仲間がいることは「障がい」に限らず「子育て中のママ」「大学生同士」等、同じ境遇の人とは話ができて共感できることがたくさんあると思います。また、ピアサポートセンターには20〜60代のメンバーがおります。ここで、新しい発見や「生きる力」を感じていただければと思います。

JR利用

きっかけは、障がい者には数少ない移動手段の一つであるJRを利用して自分たちの行動範囲を広げようという事でした。JRを車いすで利用となると簡単ではない事がわかりました。最寄り駅の状況や乗り降りのスロープの手配など事前にJR側に連絡する必要性がありました。簡単に利用出来るようにするため、定期的にJRで出かけようということになりました。まず自分たちが利用することでJR側に駅・ホーム等の不便さを認知してもらい、少しでも良くなれば車いす利用者が利用しやすくなると思えました。乗ってみると意外に「行けるじゃん！みんなが一緒の車両に乗

障がい者にやさしいまちづくり

り、話しながら行きたい場所に行ける。たまにはこういうのも良いね」と始まった小旅行ですが、早5回になります。

1回目はこちらも慎重でしたが、慣れとは怖いもので失敗談もあります。駅に「車いす利用」を伝えると、「何回も利用しているので駅員さんがスロープを準備してくれるだろう」という安心感で、当日駅に行くこと2人で持ち上げます。安心してください」と言われたのですが、私は電動車椅子(車いすの重量+本人で約160kg)を使っているため、大人2人で運ぶのは無理です。この時は、友人がたまたまスロープを持っていったので無事乗れましたが、他にも「車いすでは行けないホームに電車が着いた」とか「前と同じ時間だから行ける」と思っていたら、ダイヤ改正で到着するホームが変わっていたとか、いろいろなお知らせがあります。

①乗る時間 ②スロープの手配 ③到着ホー



ム等をJR側と利用者側がお互いに確認することが必要だと感じました。私たち全員
の理想は、乗りたいときに電車に乗れるようになることです。

「四国中央市車いす徹底活用術」作成

ピアサポートセンターを始めるにあたって相談の受け付けはもちろんのことですが、四国中央市には「こういう障がいをもった方がいます」というアピールが重要だという結論に達し、企画したのが当事者参加のセミナーの開催と学生と共につくるバリアフリーマップでした。

マップは障がい者の生活環境や四国中央市の現状を自分たち目線で作ろうと考えたのですが、沖縄の専門学校で学生が作った「車いすで回る沖縄観光地の順路マップ」は、手作り感あふれる冊子で一目でその観光地のイメージが浮かび、車いす利用者も十分楽しめるという印象を受けるものでした。それから私たちの「当事者の目線」と「学生の目線」が一つになった四国中央市での車いす利用に希望の持てる冊子の作成が始まりました。作成にあたっては市内にある三島高校VYS部の協力を得ました。打ち合わせを重ね、どうせ作るならありきたりなものじゃ面白くないので「この順路で行けばスムーズに行けます」のように作っていくという事になりました。次のページには、いっしょにマップを作った三島高校VYS部の取り組みが掲載されています。

第1回四国中央福祉用具展2011年

平成23年9月11日に「第1回四国中央福祉用具展2011」を開催した。自分たちで、紹介したい業者に片っ端から電話をかけたか、知人から紹介されたりで13の企業に来ていただきました。外国製の電動車いすや特殊な凝固剤を使用するポータブルトイレ、ロボットスーツ、意思伝達装置、ハンドサイクル、ユニバーサルデザイン文具、飲食・物品販売を行いました。来場者は約400名の方々にきていただき大盛況でした。「来年もよろしくお願ひします、こういうものが見てみたいです」などの意見も多く、また来年も企画したいと思えます。

